

科目名	人間栄養学			ナンバリング	BSS121	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	富岡 節子	担当教員	富岡 節子				

授業の概要	前期で学んだ「生化学」の知識を基盤として、栄養素(ビタミン、微量元素を含む)の役割、消化、吸収、代謝、栄養学的意義について学修する。特に、看護上重要な新生児期から高齢期まで、発達期ごとの健康的な生活をおくるために必要な栄養バランスについての理解を深める。経腸栄養法、静脈栄養法TPN、疾患別食事療法などの臨床栄養学の基礎についてもあわせて学修する。臨床栄養学は在宅ケアやチーム医療(栄養サポートチームNST)を理解するための基盤となる。						
到達目標	臨床現場において、看護師として患者に対し、必要な栄養学を取得し、臨床において応用し、活用できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing:根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
臨床現場において、看護師として患者に対し、必要な栄養学を取得し、臨床において応用し、活用できる。	臨床現場において、看護師として患者に対し、必要な栄養学を取得し、臨床において応用し、活用し、多職種の関係スタッフと情報共有し、患者に最適な栄養療法が選択できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	臨床栄養学の基礎知識 1	栄養素の分類について説明できる。	
	第2回	臨床栄養学の基礎知識 2	栄養アセスメントについて説明できる	
	第3回	食品成分と食事摂取基準 1	食品の分類、日本食品標準成分表について説明できる。	
	第4回	食品成分と食事摂取基準 2	食事摂取基準について説明できる。	
	第5回	日常生活と栄養 1	日本の食生活の変遷と現在の食生活の特徴について説明できる。 運動とエネルギー源の栄養素について説明できる。	
	第6回	日常生活と栄養 2	各ライフステージにおける健康生活と栄養について説明できる	
	第7回	療養生活と栄養 1	検査、治療回復を促すための食事について説明できる。	
	第8回	療養生活と栄養 2	栄養成分別のコントロール食、嚥下障害・経口摂取不能の人のための栄養管理について説明できる。	
	第9回	疾患別食事療法 1	消化器系疾患の食事療法について説明できる。	
	第10回	疾患別食事療法 2	内分泌・代謝疾患の食事療法について説明できる。	
	第11回	疾患別食事療法 3	循環器系疾患の食事療法について説明できる。	
	第12回	疾患別食事療法 4	腎疾患の食事療法について説明できる。	
	第13回	疾患別食事療法のまとめ	症例に対し適切な指導ができる。	
	第14回	食事指導の実際	健康増進・食習慣改善のための食事指導ができる。	
	第15回	NSTチーム活動	臨床におけるNSTチームが持つ症例に対し、適切な意見ができる。	
	試験	期末試験		
授業の進め方		スライドとプリントと教科書を用い、講義と臨床を結びつける。		
授業外学習の指示		予習・復習をする。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	ナーシンググラフィカ
参考書	看護のための臨床病態学 改定3版 南山堂 看護学講座 栄養学 医学書院
参考URLなど	
その他	